

2018年は火星が大接近！

組立式

スマホ望遠鏡で惑星を見よう

文／井川俊彦 撮影／青柳敏史 イラスト／楠美マユラ
資料提供／藤井 旭

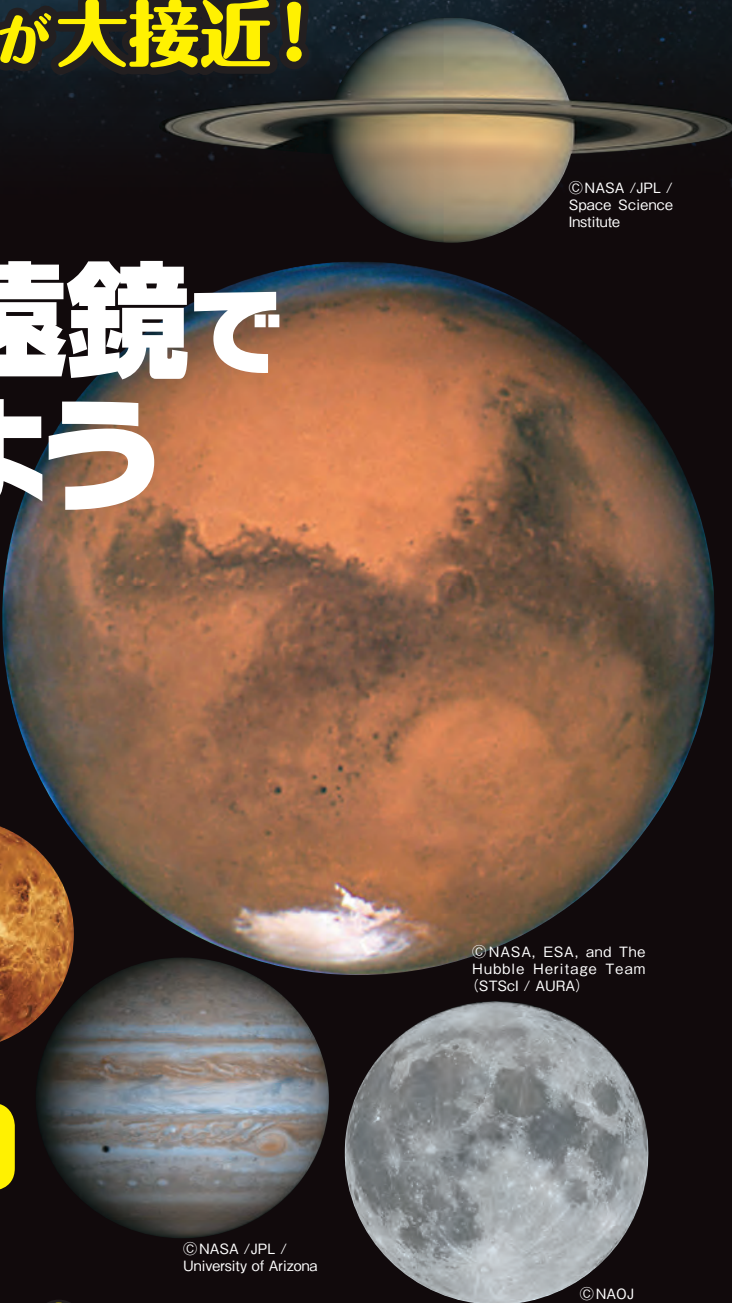
地球の兄弟星である太陽系の惑星たち。今年は15年ぶりに大接近する火星をはじめ、縞模様が特徴的な木星、美しい環を持つ土星が、それぞれ夏までに見ごろを迎える。これらの惑星は、小型の天体望遠鏡でも充分楽しめるので、今年はぜひとも“惑星観測デビュー”をしよう！ この特集の後半で、KoKaイチオシの「組立式スマホ望遠鏡」を紹介するゾ！

この日の空に注目！

3月7日～11日

月が木星、火星、土星に近づいて見える

卒業式がせまる3月上旬の明け方の空で、月と惑星の共演を見ることができる。まずは3月7日と8日にかけて、下弦前の少しぼちやりした月と－2.2等級の巨光を放つ木星が接近、続いて10日は東の空へ移動した下弦過ぎの月と火星が接近、翌11日にはさらに細くなった月と土星が接近して見える。肉眼や双眼鏡でも楽しめるのでオススメだ。



は「組立式スマホ望遠鏡」で撮影した画像
※画像は事前に撮影したもので、図で紹介した日付の天体の見え方とは異なる。



月が木星、火星、土星に接近

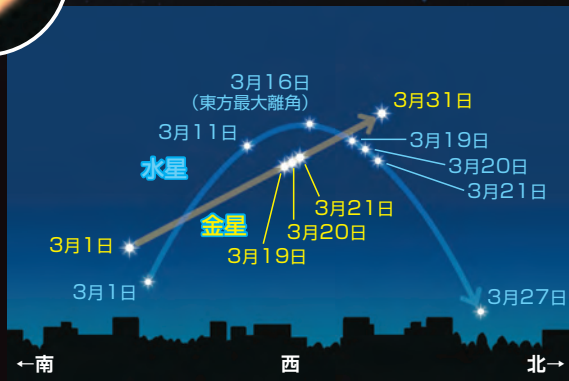
2018年3月10日午前4時30分ごろの東京の星空（観察地域によって天体の高度などが少し変化する）。月の移動とともに各惑星に近づくことがわかる。

3月16日

日没後の西空で金星と水星を見よう

太陽に最も近い水星は、普段なかなか見ることができない（天動説を唱えたコペルニクスでさえ生涯に一度も見ることがない！）。その水星が3月16日に太陽の東側へ最も離れ、11～20日ごろまで観察しやすい。日没後の西の方角、超低空に見えるゾ。水星のそばでは、宵の明星・金星が鋭い光を放っている。明るい金星と控えめに輝く水星を観察しよう。

金星



水星が東方最大離角

2018年3月、日没30分後の東京の星空。西の地平線が見えるような開けた場所、まずは目印となる金星を見つけてから水星を探そう。

5月9日

木星が“衝”となり、前後1か月以上は見ごろ

太陽系最大のガス惑星・木星が5月9日に“衝”を迎え、前後1か月以上は観察に適した期間となる。惑星の“衝”とは、地球に対して太陽の正反対の位置にくることだ。このころはほぼ一晩中見ることができ、しかも地球に近づく。木星は－2.5等級という巨光を放っているのすぐに見つけることができる。天体望遠鏡を使えば縞模様や衛星まではっきりわかるゾ！

木星



てんびん座での木星の動き

今年、さそり座のとなり（北西側）のてんびん座を運行中の木星は、やや黄色味がかったひととき明るい光を放っているのすぐに見つかるはずだ。

6月27日

土星が“衝”、しかも環が大きく開き美しい

木星に続き、6月27日には、美しい環を持つ土星も“衝”となり見ごろを迎える。しかも環の開き加減が最大に近く美しいのだ。地球から見た土星の環は、約30年周期で傾きが変化する。2025年には環を水平方向から見ることになる（消失してしまう（環のない土星なんて！）。ぜひ天体望遠鏡を用意して、思う存分、土星を楽しんでおこう！

土星



いて座での土星の動き

今年、土星はいて座を運行中で、3月中旬～4月にかけては赤い火星とほぼ同じ明るさで寄り添って見えるのを目を引くだろう。